

# 育G新聞

Vol.17  
イクジイが日本を元気にする。  
毎月1回連載

育G新聞編集部 編集協力：  
NPO法人 ファザーリング・ジャパン  
NPO法人 孫育て・ニッポン

## 育Gインフォメーション

楽しい子育て・孫育て講座

【日程】8/2(金)、9/6(金)、10/4(金)

【時間】午後1時30分～3時30分

【参加費】1000円(一家族)

【場所】東京都台東区  
社団法人日本助産師会2階研修室

【対象】祖父母、ママ・パパ

【主催】社団法人日本助産師会2階研修室  
NPO法人 孫育て・ニッポン

NPO法人 孫育て・ニッポン  
会員募集中!

家庭や地域で「孫育ての笑(わ)」を広げる仲間を募集しています。孫の有無、年齢、性別は問いません。9月から会報「おまご新聞」(年4回)を発行予定。

詳しくは→www.magosodate-nippon.org

## 育G発見

No.17

(株)ATLジャパン代表取締役  
NPO法人エガリテ大手前 代表  
古久保 俊嗣さん



日本初のおじいちゃん講座「ソフリエ講座」を開講しているNPO法人エガリテ大手前代表の古久保俊嗣さん。「ソフリエ講座」開講の経緯、想いをうかがった。

「2004年、高校卒業30周年の同窓会幹事をやったんです。同窓会は大成功、とても楽しかったんですが、終わってしまると何だか寂しい。何か社会の役に立つことをと、仲間たちと2005年にNPOを立ち上げました。我々の母校は、明治創立の女学校で男女共同参画の意識が高かったので、テーマは『男女共同参画の推進』とすぐに決まりました。」

エガリテ大手前のエガリテは、仏語で平等という意味、大手前は学校名。

「メンバーでは、『近未来同時進行小説』といっていますが、我々がこれから歩むであろう時代、生活、幸せに焦点をあて、自分たちなりに考えるという姿勢でスタートしました。娘や息子の結婚、

相手の親との付き合い方、介護、そして、できたのが孫です。」

ソフリエ講座は、2005年にスタート。自治体とのコラボレーションなど計画をしていたが、当時は誰も見向きもしなかったという。

「現代の少子高齢化、女性の就労問題、保育園の待機児童問題などを考えると、時間はあるがチャンスがなく、誰からも信頼されていない、おじいちゃんの活用に着目しました。」

講座は1日6時間。孫育ての基本、日常生活、ふれあい、安全の4科目を学び、お昼には調理実習が組まれ、受講者には認定書がおくられる。

「ソフリエ講座は、孫との関わりだけでなく、男性の生活力を上げることを目的としています。定年退職後の家庭参加、社会参加、地域参加が求められています。退職したからといってすぐにできるわけではない。孫の誕生は人生最大のチャンスです。働く=協力、教育すること。おじいちゃんは長年それらを培ってきたその道のスペシャリスト。だから、講座で少し知識をつけて自信を持って欲しい。」

現在エガリテ大手前では、九州大学名誉教授の井口潔氏らと、シニア世代がサポートし、子どもたちの「生きる力」を育むプログラム「IQNOH(イックノウ)」を開発中。「ソフリエ講座」、世界初宅配型市民大学「エガリテ市民大学」とともに、楽しみ、喜びがあるプログラムが期待される。

## 育G潮流

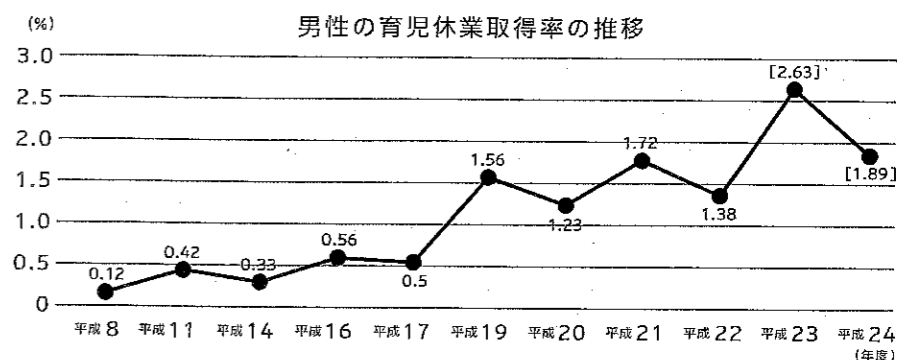
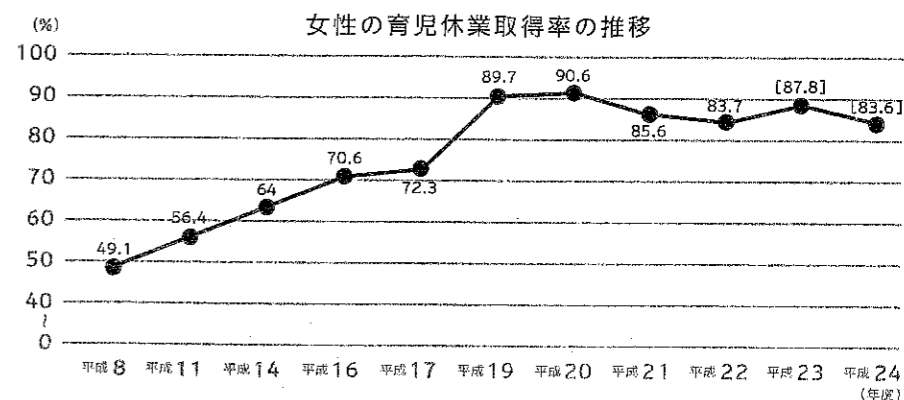
— 男性の育休はなぜ増えない? —

7月上旬に発表になった男性の育児休業取得率は、1.89%と前年と比べ0.74%減少した。世の中的には、イクメンブームもあり、男性の子育てはアタリマエになってきた感があったが、実際にはまだ結果に結びついていないようだ。

なぜ男性の育児休業取得率が上がらないのか。当事者のパパたちからは、「今後の昇格、昇級に影響が出そうで心配」「前例がない」と言う声が聞こえてくる。

上司であるみなさんがご自身の経験を踏まえ、「後悔しないように、育休をとって子育てしてこい!」と部下に声をかけるようにしたら、日本の男性の育休取得率も上がるのではないだろうか。

(NPO法人孫育て・ニッポン ぼうだあきこ)



※注:平成23年度及び平成24年度の[ ]内の比率は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。

## 育G7711

育Gスタイリスト G・ハヤシが「ソフリエ」のみなさんに聞きました。  
いまだきの孫育てのコツとは?

最重要ポイントは、昔の育児の「常識」にとられないこと。たとえば、昔は、おむつをとるために早い時期からの「トイレ・トレーニング」に熱心だった。→今は、おねしょも5~6歳まで気長に待つのがよいとされる。夜中に起こしてトイレに行かせることは、膀胱や尿量を調整するホルモン分泌の発育のために逆効果。

昔は、自立が遅れるなどと「添い寝」に否定的だった。→今は、赤ちゃんがぐっすり安心して眠るなら「添い寝」もよい。などなど。とにかく、今の育児を素直に学ぶのがポイント。

ママにも積極的に質問してみるとコミュニケーションがはかれて、さらに一石二鳥です!

